

令和5年度
漱石山房記念館

《通常展》テーマ展示

漱石・ 修善寺の大患と 主治医・ 森成麟造

会 期：2023年

4月13日☐木☐～7月9日☐日☐

会 場：新宿区立漱石山房記念館 2階資料展示室

開館時間：10:00～18:00 (ただし入館は17:30まで)

休 館 日：毎週月曜日 (祝休日にあたるときはその翌日)

観 覧 料：一般300円、小中学生100円

※団体(20名以上・要事前連絡)は個人の観覧料の半額。

※小中学生は土日祝日は無料です。

※障がい者手帳等をお持ちの方は手帳の提示で無料(介助者1名無料)。

主 催：新宿区立漱石山房記念館
(指定管理者：公益財団法人新宿未来創造財団)

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7

TEL.03-3205-0209 FAX.03-3205-0211 <https://soseki-museum.jp/>



令和5年度 漱石山房記念館《通常展》テーマ展示

漱石・修善寺の大患と 主治医・森成麟造

胃潰瘍を患っていた夏目漱石は、明治43(1910)年8月24日、修善寺での療養中に体調が悪化し、大量吐血の後に危篤に陥ります。この出来事は、その後の漱石作品に影響を与えた大事件「修善寺の大患」として知られています。本展は、漱石自身による「思ひ出す事など」、医師・森成麟造による「漱石さんの思出」、妻の鏡子による「漱石の思ひ出」、坂元雪鳥の「修善寺日記」など、その場に居合わせた人達の記述をもとに、漱石の「生涯にあつて最も恐るべき危険の日」を再現します。

危篤を脱した漱石は、看護してくれた人、訪ねてくれた人の親切に感謝し、「病に生き還ると共に、心に生き還つた。」と記しています。漱石を死の淵から救い、二か月の長きに渡り修善寺に同宿して治療にあたった森成医師への想いは格別なものでした。漱石から麟造に贈られた品々や手紙をもとに、二人の交流についても紹介します。

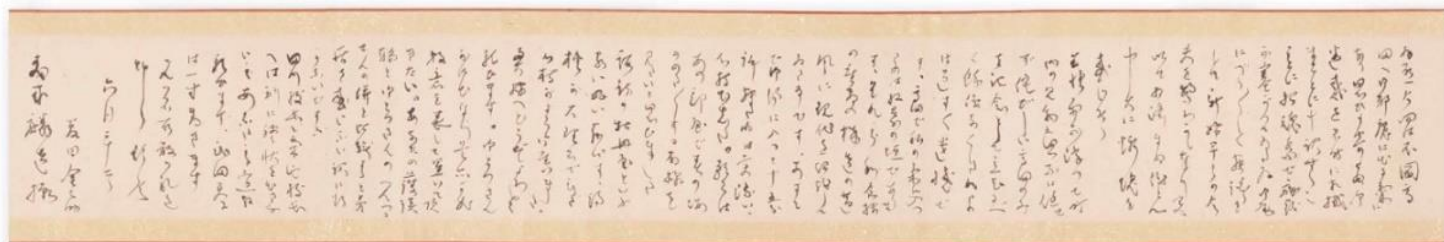


▲村山龍平画夏目漱石「黒猫図」(個人蔵)
▲森成家に寄贈された掛軸

▲「森成麟造氏送別宴」(明治44年4月12日撮影)
漱石山房で開かれた森成医師の送別会「肝臓会」記念写真



▲漱石から森成医師へ看護のお礼として贈られたシガレットケース(個人蔵)



▲夏目漱石 森成麟造宛書簡 明治44年6月22日付(個人蔵)



ギャラリートーク
関連イベント
日時: 4月23日(日)、5月21日(日)、6月18日(日) / 午後2時~2時20分
場所: 地下1階講座室

新宿区立漱石山房記念館 (指定管理者: 公益財団法人新宿未来創造財団)
〒162-0043 東京都新宿区早稲田南7 TEL.03-3205-0209 FAX.03-3205-0211 <https://soseki-museum.jp/>
交通のご案内
〈電車〉
東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分
都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分
〈バス〉
都営バス(白61)「牛込保健センター前」より徒歩2分
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

※新型コロナウイルスの感染状況により、イベント内容に変更が生じる場合があります。最新の情報は、当館のウェブサイトにてご確認ください。

